



ご挨拶



舞踊家・尾上菊之丞と狂言師・茂山逸平が互いのジャンルを超え、新しい形としての「舞踊と狂言」の可能性を模索する為に作った逸青会。

これまで「茶壺」「千鳥」という作品では、違うキャラクターの登場人物を舞踊と狂言の表現の違いで描き、二つの作品を手がけてまいりましたが、今回の「樋の酒」では太郎冠者、次郎冠者という同じ立場に立ったキャラクターを舞踊と狂言で表現する事に挑戦致します。

「逸青会」新たな試みをお楽しみ頂ければ幸いです。

尾上菊之丞
茂山逸平

舞踊 橋弁慶 (はしべんけい)

牛若丸(後の源義経)と武蔵坊弁慶の伝説。京都五條大橋で烈しく闘った二人、降参した弁慶が従者となることを願い主従の契りを交わします。千本刀狩の最後の一本を奪うために橋の上で待ち構えている弁慶を牛若丸が退治するといふのが有名な場面ですが、謡曲「橋弁慶」を題材にとった本曲は、逆に待ち伏せる牛若丸を丑の時詣のため通りかかる弁慶が退治しようとするものです。いずれにせよ豪快無双の弁慶と、貴公子然とした牛若丸の闘いの様が見どころとなります。

狂言 鍋八撥 (なべやつばち)

一の店にいた者を新しい市の代表にするという高札を見てやって来た浅鍋売りと羯鼓売り。どちらも自分が先だと口論しているが目代が仲裁に入ります。羯鼓売りが自分が売る羯鼓こそ由緒正しいと主張すれば、浅鍋売りの浅鍋は貴賤なく人に必要なものだと言い双方譲りません。困り果てた目代は二人に勝負をさせその勝ち負けによって決めようとしています。。。。羯鼓と浅鍋を使った二人の相舞が見所の賑やかな作品です。

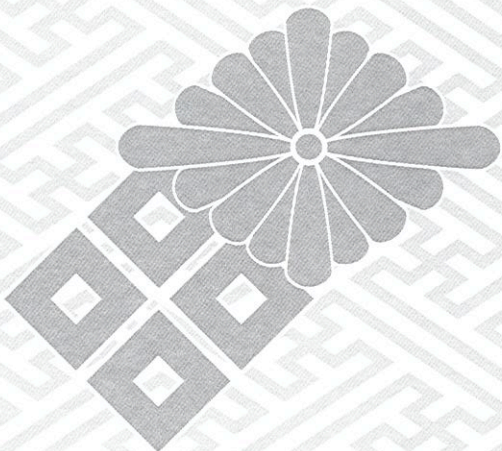
樋の酒 (ひのさけ)

主人が留守になると良からぬ事を企む太郎冠者と次郎冠者。一計を案じた主人に酒蔵と軽物蔵にバラバラに閉じ込められた二人の冠者はなんとかして二人で酒宴をしようと知恵をしぼり二人で酒を飲みだしますが。。。。別々の蔵に閉じ込められた二人の様子を『逸青会』ならではの舞踊と狂言の演出の違いを利用して新しく構成しました。

(補筆協力・今井豊茂)

逸青会

尾上菊之丞・茂山逸平二人会



2012年 7月8日(土)
14:00 開演
大江能楽堂

企画・主催 逸青会

狂言

鍋八撥

茂山逸平

茂山宗彦

島田洋海

後見
鈴木実

笛
藤舎貴生

舞蹈

橋弁慶

尾上菊之丞

尾上京

唄
今藤政貴
今藤政之祐

三味線
今藤長三郎
今藤政十郎

囃子
藤舎貴生

梅屋巴
梅屋喜三郎
藤舎千穂

樋の酒

作曲 藤舎貴生

尾上菊之丞

茂山逸平

島田洋海

唄
今藤政貴
今藤政之祐

三味線
今藤長三郎
今藤政十郎

囃子
藤舎貴生

梅屋巴
梅屋喜三郎
藤舎千穂